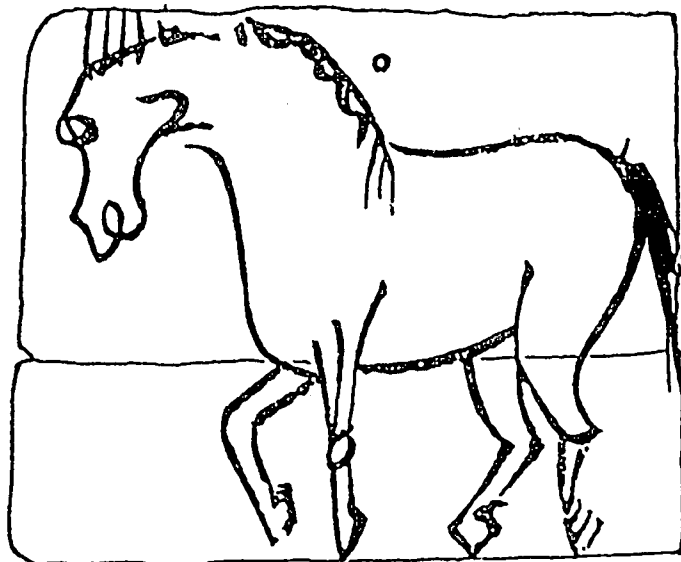


平成2年6月24日(日) 14:00~16:00

越谷市郷土研究会 第98回 研究発表会 「絵馬について」の資料

こ え ま
小 絵 馬

百 選



伊場遺跡出土絵馬(縦7.3釐・横8.9釐)ほぼ実物大の模写

絵馬は小さな『小絵馬』（こえま）と大きな『大絵馬』（おおえま）とに分類される。大絵馬は江戸時代から明治にかけて絵師によって盛んに作られ神社・寺院に奉納され、額絵馬（がくえま）とも言われる。一方、小絵馬は古代から現代まで見られ、主に個人的な祈願に用いられて神社・寺院に奉納されるが、さまざまな絵柄があり庶民の願いや生活が痛切に感じ取られる。

そこで『小絵馬』について、さまざまな絵柄の中から主なもの100種類選んで紹介する。

小絵馬の分類（岩井宏実氏による）

- I. 馬の図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 1～No. 5
- II. 神仏の像を描いた図・・・・・・・・・・ No. 6～No. 18
- III. 神仏を象徴する持ち物などを描いた図・・・・・・・・ No. 19～No. 22
- IV. 神仏に縁故の深い眷属（けんぞく）などを描いた図・・ No. 23～No. 41
- V. 神仏の依代（よりしろ）・祭場・祭具などを描いた図・ No. 42～No. 51
- VI. 祈願の内容を描いた図・・・・・・・・・・ No. 52～No. 95
- VII. 礼拝姿を描いた図・・・・・・・・・・ No. 96～No. 100
- VIII. 干支（えと）を描いた図
- IX. その他



1. 馬
馬の絵馬は祈願者が願い事の対象の神仏などがわからない時にも利用され、重宝がられている。



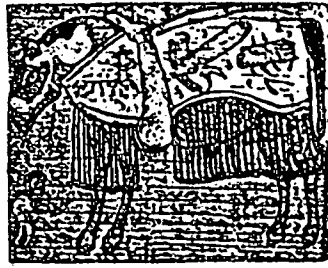
2. 神馬献上（しんばけんじょう）
馬は神の乗り物。馬を神に献上しに行く所。時代が下るにつけ、図柄があっさりとなる。



3. 御幣馬（ごへいうま）
御幣を持った馬で、全国各地に見られる絵馬。



4. 親子馬 (おやこうま)
親馬が子馬を連れて松の枝の下をのんびりと歩いている。子馬の成長と無病息災を祈願する。



5. 猿曳き駒 (ざるひきこま)
左下の小さい猿が大きな馬 (駒) を曳いている。猿は馬を守ってくるとされ、猿曳き駒は厩 (うまや) の守り札となる。



6. 地藏 (じぞう)

一般に病氣や子供に関するいろいろな願い、子育て・夜泣き・痲(かん)の虫などに奉納する。地藏の絵馬は縦長の長方形が一般的である。地藏



女性の顔付きをした地藏である。

7. 尼さん地藏



8. 不動尊 (ふどうそん)
お不動様は右手に降魔 (ごうま) の劍、左手に鬚索 (けんじゃく) と言う綱 (つな) を持つ。子供が強く成長するように、又は、病氣が治るようにと祈願する。



9. 毘沙門天 (びしゃもんてん)
右手に塔を掲げ、左手に鉾 (ほこ) を持ち、白雲に乗っている毘沙門天は、四天王 (してんのう) の一人で、多聞天とも言う。また、七福神の一人。招福 (しょうふく) と先勝を祈願する。

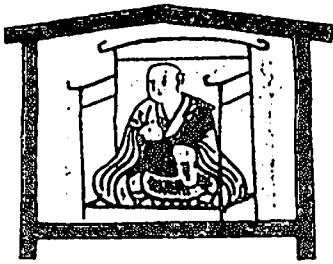


10. 天神様・菅公 (かんこう)
衣冠 (いかん) 姿に胸に梅鉢紋 (うめばちもん) を付けた菅原道真公 (すがわらのみちざねこう・菅公) を「天神様」と俗に言う。字の上達を祈願する。つまり、学問の神様。古くは雷神様 (らいじんさま) とされ、雷除け (かみなりよけ) を祈願した。



11. 灸平内 (くめのへいない)
男女の恋を取り持つ縁結びの神。平内は千人斬りをやろうとしたが悔い改めて、自ら石像を刻み通行人に踏み付けさせた。のち「ふみつけ」が「文付け」となり、文 (ふみ) の奉納となる。東京の浅草にある浅草寺 (せんそうじ) 山門に灸平内堂、俗に「フミツケ塚」と言うのがあって、かつてここに掛けられていた。

12. 香竜様 (どんりゅうさま)
法衣をまとい、竹筒をかぶり、山袋 (きょくろく・椅子のこと) に寄り掛かった姿の香竜上人 (しょうにん) は、群馬県太田市の大光院 (だいこういん) を開く。「子育て香竜」とも言い、子供の病氣一切に御利益 (ごりやく) があるとされ、そのお札にこの絵馬を奉納する。



13. お大師様 (おだいしさま)
 大師 (だいし) とは弘法大師 (こうぼうだいし)、つまり真言宗を開いた空海をさし、関東や四国路 (しこくじ) に多く、曲傘 (まげ) (きょくろく) (椅子のこと) に座って三結 (さんご) (密教の法具) を逆手に持ち、左手は数珠 (じゅず) を持つ。関東では東京の西新井 (にしあらい) 大師や利根川筋の八十八ヶ所巡りで見られた。



14. 向かい天狗 (てんぐ)
 左は烏天狗 (からすてんぐ)。天狗は荒 (あら) ぶる神で、魔王様の第六天神社や火の神の秋葉神社よりいただき、火難除 (よ) け・魔除 (よ) けのお札として軒先 (のきさき) に吊 (つる) される。

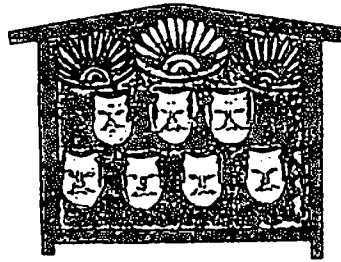


15. 鬼神様 (おにがみさま)
 右が赤鬼、左が青鬼。鬼領神社から悪病除 (よ) けとして正月にもらい、民家の軒先 (のきさき) に吊 (つる) される。



16. 鬼くすべ

「鬼くすべ」と呼ばれる鬼女が描かれている。この般若 (はんんにゃ) の鬼神様は頭腐 (かぶ) の神でもある。絵馬は大分市外の白木浜にある天満宮から出され、魔よけとして軒先に吊される。



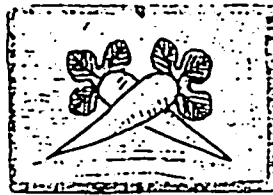
17. 七つ面 (ななつめん)
 七面様 (しちめんさま) は、日蓮が久遠寺 (くおんじ) ・日蓮宗本山の霊山の神として祭られた。「七つ面」は、七面大明神 (だいまうじん) に愛福・財福の祈願として掛けられる絵馬。



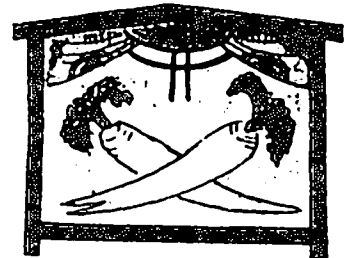
18. 仁王様 (におうさま)
 仁王は金剛力士 (こんごうきし) とも言い、山門出入りの悪魔を退散させる仏様。村相撲 (むらさむ) 盛んな所では力士の力肌上達を祈願する。



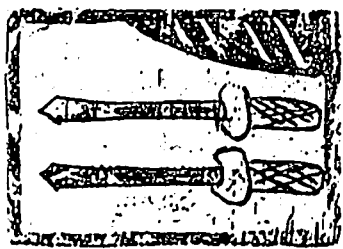
19. 柘榴 (ざくろ)
 柘榴は鬼子母神 (きしもじん) ・たくさんの子を生んだが、他人の子を奪って食べたので、釈迦 (しやく) による彼女の末子が隠され御められ、後に子を守る善神となる) の持ち物で、人間の肉の味がして、かつ、一度にたくさんの災を生むことから、子授けを祈願する。



20. 違い大根
 「違い大根」(交差した大根) は、聖天様 (しょうてんさま) の紋。聖天は歡喜天 (かんぎてん) とも言い、右手に大根を持っていると云う。大根を禁食して「違い大根」の絵馬を奉納し、夫婦和合や福利を祈願する。



21. 二股大根 (ふたまただいこん)
 上は、二股大根を2本交差させて、それぞれ先をからませた図。二股大根を女性と見なし、夫婦和合の祈願として聖天様に奉納する。



22. 不動剣 (ふどうけん)
 不動尊 (ふどうそん・不動明王) の持ち物で、「降魔の剣 (ごうまのけん)」と呼ばれる。魔よけのお札となる。



23. 向かい狐 (むかいぎつね)
 狐は稲荷神社の使いで、一対 (いっつい) が中央の宝珠 (ほうじゅ) を見守っている。そのうち一匹は米蔵の鍵を口に加えている。五穀豊饒 (ごこくほうじょう) ・商売繁盛を祈願するのが一般的である。



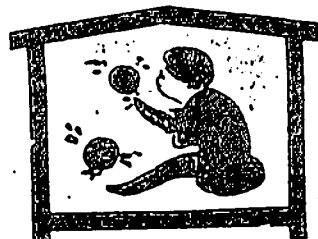
24. 飛び狐 (とびぎつね)
 「向かい狐」はよく見られるが、このように飛び交っている狐は珍しい。



25. 三猿 (さんえん)
 三猿の猿は庚申 (こうしん) 標の使い。五穀豊饒 (ごこくほうじょう) と招福 (しょうふく) を祈願。また猿は「去る」と言うごろ合わせから、災難・病魔が去るとも結び付く。



26. 柿持ち猿 (ももちざる)
 猿は女性の尻を意味する。子授け・安産・下 (しも) の病を祈願。この絵馬を抱いて寝ると子供に恵まれると言う。



27. 柿持ち猿 (かきもちざる)
 「柿持ち猿」は珍しい。「格持ち猿」が女性を対象にしているのに対して、「柿持ち猿」は男子の成人祝いに奉納する。



28. 鰐 (めえ)
 鰐とは、平安時代末期にいた源頼政 (みなもとのよりまさ) が退治したという伝説上の怪獣。頭は猿、胴は狸 (たぬき)、尾は蛇、手足は虎に似ている言う。一家に申 (猿) ・巳 (蛇) ・寅 (虎) の干支 (えと) の者が揃うと勢力争いになるので、これを無くすにはこの絵馬を神社・仏閣に奉納するとよいと言われる。



29. 日の出に鷹 (たか)
 たかは、スサノオノミコトまたは牛頭天王 (ごずてんのう) の使い。鷹は一羽の白鷹に太陽 (出生) ・松 (待つ) を描く。他に梅 (生め) を描くこともある。子授けや安産を祈願する。スサノオノミコトを祭る氷川 (ひかわ)、祇園 (ぎおん) 神社などでも見られる。



30. 鳩 (ほと)
 鳩は八幡 (はちまん) 神社の使いで、豆を拾って食べることから。手足にまめができた時、鳩に食べてもらって治るようにと祈願するときに奉納する。



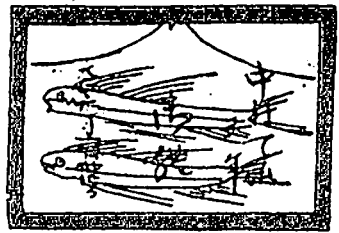
31. 夫婦鳩 (ふうふぼと)

鳩は一夫一婦 (いっふういっふ) 制が厳格で仲の良い鳥なので夫婦円満や安産祈願に奉納される。背景に描かれているのは太陽 (出生) と松 (待つ) である。



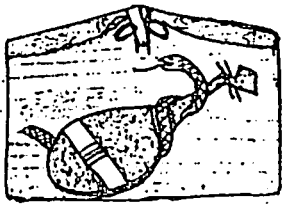
32. 鰻 (うなぎ)

鰻は、京都の三島 (みしま) 神社の使い。図は二匹が交差していて、中央に三島神社の紋が見られる。また、埼玉県三郷市にある「虚空蔵 (こくぞう) 様」は鰻は虚空蔵菩薩の使いであると言われ、二匹が水中で仲良く並んで泳いでいる図柄の絵馬で、鰻を禁食して夫婦和合を祈願。三匹仲良く並ぶと夫婦と子の安泰を祈願。



33. 飛び魚 (とびうお)

飛び魚は今熊野 (いまくまの) 神社の使いで、禁食して祈願する。飛び魚が二匹並ぶと夫婦和合となり、祭神のイザナギ・イザナミに当てる。



34. 蛇 (孫巻に巻き付く蛇)

蛇は弁天様 (弁財天) の使いで、弁天の持ち物である琵琶に巻き付いている図柄が多い。病氣平癒 (へいゆ) や芸道上達を祈願する。



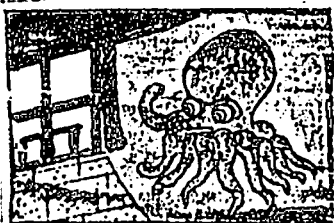
35. 蛇 (とぐろを巻く白蛇)

諏訪 (すわ) 神社や聖天 (しょうてん) 様の使いとも言い、蛇は蚕 (かいこ) の天敵である鼠 (ねずみ) を食べることから、養蚕の成功を祈願する。



36. 赤鰻 (あかえい)

赤えいは女性の海の神様を祭る広田 (ひろた) 神社の使い。この神社は一説には四天王寺 (してんのうじ) の寺領 (じりょう) にあることから、府良 (じりょう) つまり埴が治るに当てて赤えいを禁食して祈願する。



37. 蛸 (たこ)

蛸の吸盤 (きゅうばん) に因縁付けて、イボ・腫 (は) れ物平癒 (へいゆ) のため蛸を禁食して蛸薬師・蛸地蔵に祈願。特に埼玉県の二郷半 (にごうはん) 領、今の三郷市内の蛸薬師様は知られている。また、東北地方では蛸の目玉が鋭いことから眼病 (がんびょう) が治るようにと祈願する。

38. 百足 (むかで)

百足は毘沙門天 (びしゃもんてん) の使いで、毒をもつ虫。諸毒の害を除くという本来の祈願から、お足 (お金) が多くなるようにと関西で大阪商人などの間で信仰されている。



39. 百足礼拝 (れいはい)

赤い百足を三方 (さんぼう) ・神仏に供える四角い台) に載せて供え、それを拝んでいる図。赤城山 (あかぎさん) の百足と日光の大蛇 (だいち) との戦い伝説から、赤城神社の使いとなる。養蚕繁栄を祈願する。



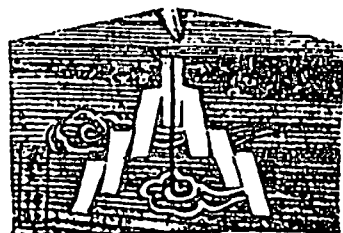
40. 猫

鼠の大敵である鼠を封じるのが猫で、岩手県高田市の猫湯（ねこぶち）神社の節廻様に猫が育つようにと祈願。また、猫の絵馬は津軽の巫女（みこ）絵馬にもよく見られる。巫女がお祓（はら）いの時、お告げによって決められる絵馬の図に猫が多く見られる。



41. 狸と地車（じぐるま）

榎（えのき）に住む老いた吉兵衛（きちべい）狸が、地車（祭りの時）に出る曳き物、東京地方では山車【たし】とか屋台【やたい】と言う）を曳いている図。毎夜、地車囃子（ばやし）を好んでまねて人を驚かせたと言う。大阪堀川の榎木（えのき）神社、俗に、「堀川の地車稲荷」に諸病一切・家業繁栄を祈願する。



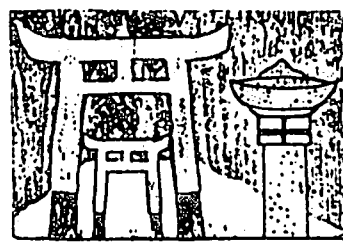
42. 御幣（ごへい）

御幣が瑞雲（ずいうん・めでたい雲）に乗って降臨（こうりん）するところ。御幣は神の依代（よりしろ）で、神が招き寄せられ乗り移る物）で、金刀比羅宮（ことひらぐう・こんびらぐう）では、金色の御幣となる。諸願成就（しょがんじょうじゅ）の祈願をする。



43. 御幣礼拝（ごへいらいはい）

瑞雲（ずいうん）に乗った御幣に人が合掌（がっしょう）している拝みを付け加えた拝み絵馬。諸願成就の祈願をする。

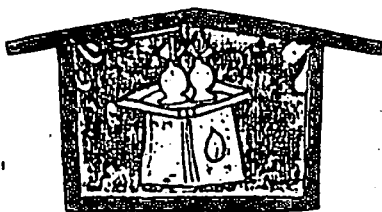


44. 鏡

鏡は化粧用具というよりは、古くは祭祀（さいし）用具として使われ、神の依代（よりしろ）とされた。つまり、ご神体（しんたい）が鏡となるのである。

45. 鳥居（とりい）

鳥居は神社の神域（しんいき）を示すもの。上の図は壇籠（とうろう）の絵も描かれている。

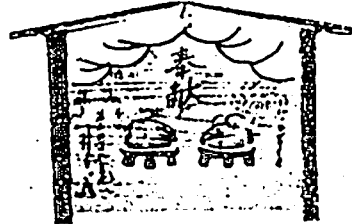


46. 重ね餅（かさねもち）

三方（さんぼう）に載せて神に供える餅は酒とともに重要なお供えもの。鏡餅（重ね餅）のうちで、大きな円餅（まるもち）は「おすがた」と呼ばれ、餅が、ご神体ともなる。

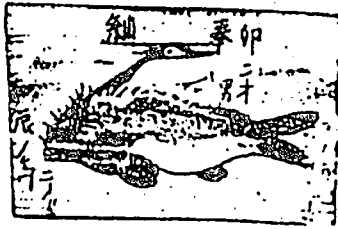
47. 神酒（みき）

お神酒を三方（さんぼう）に載せて三鬼（みき）様に供えた図柄。この神は夜、祠（ほくら）を抜け出して町の酒屋に酒を買いに行くと言う酒好きの神なので顔で罇（つぼ）に付けられている。そのかわり、酒を供えて祈願すれば願い事がかなえられる。



48. 鹿頭（しかがしら）

鹿の生首（なまくび）を二つ向かい合わせに三方（さんぼう）に載せた図。秩父地方の皆野町（みなのみち）の諏訪（すわ）神社の絵馬。昔は血もしたたる子鹿の生首を奉納し、狩野の大願成就を祈願。伊州（しんしゅう・長野県）の諏訪神社にまつて狩野神としてのその風習があった。



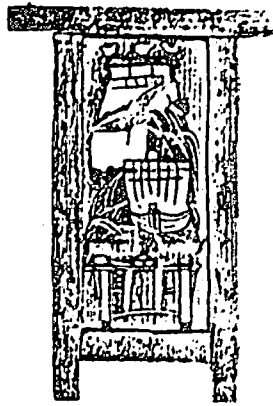
49. おこぜ

鰻(みにく)い魚であるが、山の神の好物とか、山の神の妻あるいは使いとされ、狩猟祈願や樹気平癒などに奉納する。



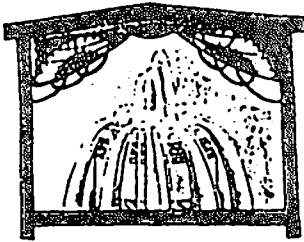
50. 立籠(たちびな)

立籠は女子が淡島神社に奉納するもので、淡島様は住吉様(住吉神社)の女房神とされ、病人病が治るようにと祈願する。



51. 山笠(やまがさ)

山車(だし)は祭りの時に見られるが、博多の備田(くしだ)神社の「山笠」と呼ばれる山車の絵馬で、疫病退散・五穀豊饒を祈願し備田神社に奉納。



52. 井戸

「吹き上げ水」とも言われ、井戸を掘るとき、良い水がたくさん出るようにと地主神に祈願するときに奉納する。



53. 母子入浴

子供の入浴嫌いが治るようにと母親が幼児を抱いて入浴している図。昔は入浴嫌いの子どもが多く、親にとって頭痛の種であった。



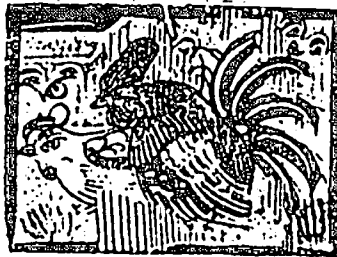
54. 小児(しょうに)入浴

子供がたらい(顔や手を洗うために、湯や水を入れる器)につかっている。平(さお)には脱いだ着物が掛かっている。子供の入浴嫌いが治るようにと祈願し奉納する。



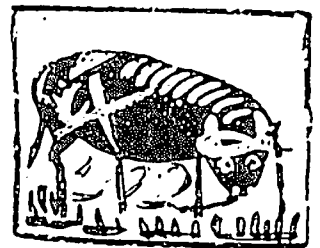
55. 月代(さかやき)

月代とは散髪(さんぱつ)のこと。剃刀(かみそり)で丸坊主に剃ったので、とても嫌がったのである。子供の散髪嫌いが治るようにと祈願し奉納する。



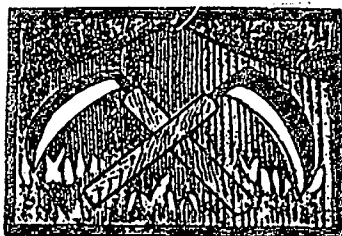
56. 鶏(二鶏・にけい)

鶏は夜泣かないことから子の夜泣き封じ、鳥目であることから夜盲症平癒、赤いとさかがあることから火の用心などを祈願。また、かまどの神である「荒神(こうじん)様」が神無月(かんなずき・旧暦の10月)に出雲(いずも・島根県東部)に行く時の乗り物として用いるので、年の暮れに屋敷内の荒神柱に奉納する。

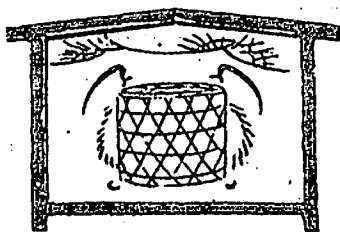


57. 牛

牛が草を食べている図。子供の瘡(くさ・皮膚病の総称)つまり、腫(は)れ物を草にたとえて、牛に食べさせて治るようにと祈願する。また、牛は天神(てんじん)様の使いであるとして天神社(てんじんしゃ)に奉納する。



58. 違い鎌 (ちがいがま)
鎌 (かま) で草を刈り取るように、瘡 (くさ) つまり腫れ物が鎌で刈り取られるようにと子供の皮膚病の平癒を祈願する。



59. 草刈鎌 (くさかりがま) と籠
鎌と刈った草を入れる籠 (かご) を描く。「違い鎌」と同じく、子供の瘡 (くさ) が治るようにと祈願する。



60. 為朝と鬼の力比べ
源頼西八郎為朝 (みなもとのちんぜいはちろうためとも) が鬼界が島 (きかいがしま) に流され、鬼を征伐したとの伝説に基づき、武者 (むしゃ・為朝) が鬼と弓を引っ張りあっている図。軒先 (のきさき) に吊 (つる) し、子供の疱疹 (ほうそう・天然痘のこ) 除 (よ) けとなる。



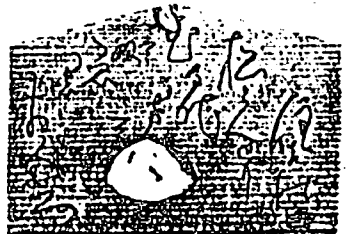
61. 武者 (むしゃ)
武士が虎の皮の上に座って、軍扇 (ぐんせん・昔、大将が軍を指揮する時に使った扇で、日の丸が描かれている) を片手に見栄 (みえ) をきっている。男の子の立身出世 (りっしんしゃっせ) や、たくましく育つようにと祈願する。



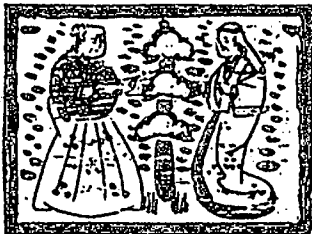
62. 姫 (ひめ)
十二単 (じゅうにひとえ) に、絵扇 (ひおうぎ) を持ったお姫様。女の子が立派に女の子らしく育つようにと祈願する。



63. 乳しぼり
乳がほとばしる「乳もらい」の図。乳が出ない母親は四方八方にもらい乳を捜し回った。その時奉納する祈願の絵馬である。なお、逆に乳が過ぎて困る母親のための「乳あすけ」の祈願もある。



64. 蛤 (はまぐり)
貝が合わさって閉じることから結合を意味し、娘の良縁が得られますようにと母親が奉納する。



65. 高砂 (たかさご)
中央に松があり、その根元に竹笹、両側に翁 (おきな) である「尉 (じょう)」と魁 (おうな) である「姥 (うば)」がほほ笑んでいる。「尉と姥」とも呼ばれ、夫婦ともに長寿をまっとうできるようにと祈願する。



66. 宝尽 (たからづくし)
宝物尽くしの絵馬。蔵の鍵・宝珠 (ほうじゅ) ・打ち出の小槌 (こづち) などの宝物の絵が描かれている。



67. 飯盛 (めしもり)

飯糰 (めしびつ) をわきに置き、腕 (わん) に飯 (めし) を山盛りにして、せっせと食べている図。胸のつかえ (心配事) がなくなるようにと祈願し、奉納する。



68. 船 (いかり) 咄 (か) み

船が咄める程の堅い歯になるように、また、船は船が動かぬように緊 (つな) ぎとめることから歯の動き、つまり歯痛腫痛が治るようにと祈願する。

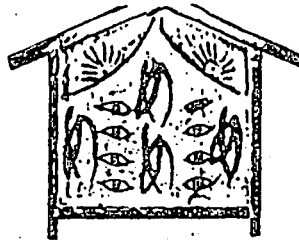
69. 船 (いかり)

船だけの図。東京の日本橋の水天宮 (すいてんぐう) が代表的。花柳界 (はなやぎかい・かりゅうかい・芸者 や娼妓 [しょうぎ] の社会) の女性が、良い旦那 (だんな) の足止めに他所で沈没しないようにと願 (がん) かけに使う。



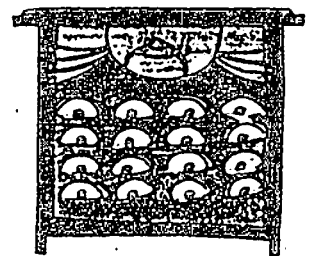
70. 向かい目

眼病が治るようにと祈願する。関東から中部にかけて見られ、一般的には薬師堂に奉納する。



71. 八つ目 (やつめ)

8個の目、八む (= 疳む・やむ) と言う意味。眼病平癒 (へいゆ) を祈願。昔は衛生思想も悪く、眼病患者が多くいて悩みが深刻であった。



72. 十六目

「八つ目」と同じ願いで奉納する。他に「四十目」もあり、8の倍数となっている。



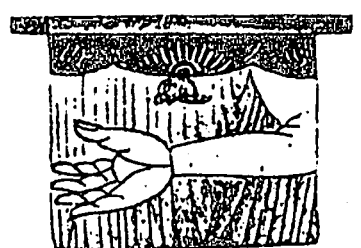
73. 田螺 (たにし)

田螺の「螺」(つぶ) を「眼」(つぶら) にかけて、田螺を禁食して眼病が治るようにと祈願する。図は、2個の田螺が人間の目玉をむきだしたように描かれている。



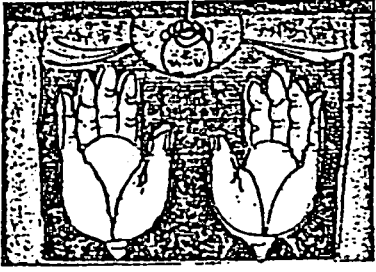
74. 腰 (こし) から下 (した)

婦人が腰から下の病 (性病など) が治るようにと祈願する。性病平癒には女陰や男根を描いた絵馬も見られる。



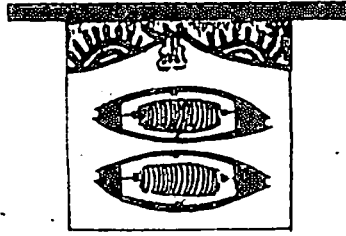
75. 片手

中気 (ちゅうき・脳出血後に起こる、体のまひ・中風 [ちゅうぶ] とも言う) などの手の病が治るようにと大手神社に奉納する。



76. 両手

大手神社（栃木県足利市）に奉納する絵馬で、「片手」と同じく手の病が治るように、また女性の手先仕事（機織りなど）の上達を祈願する。



77. 梭（ひ）

梭とは機織りで横糸を通す小さな舟形（ふながた）の道具。機織りが上達するようにと女性が祈願する。



78. 腹掛（はらがけ）

腹掛とは、胸から腹までおおい、背中ではひもを交差させて結ぶ衣類で、子供の腹掛は腹冷えを防ぐために着る。子供の腹の病が治るように、または丈夫に育つようにと奉納する。足利市の大原（おおはら）神社で見られる。



79. 縁切り（えんきり）

檀（えのき）が「縁（えん）の木」と通じ、男女の縁が切れるようにと檀を中央に男女が背合わせしている。東京都板橋の檀神社に奉納する。夫婦の縁切りの他、妻・母らが夫・子どもの縁切りの縁切りも含む。



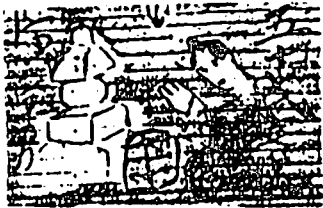
80. 縁切り（檀と男）

檀に夫が妻との縁が切れますようにと祈願している絵馬であろうか、男が何かの縁切りを祈願している図である。



81. 縁切り（背合わせの男女）

男女が背合わせに座っている図である。縁切り絵馬としてはよく見られる構図である。



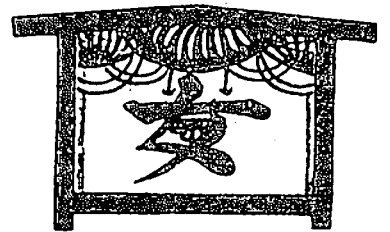
82. 本多忠朝（ただとも）の墓

生前、大酒のみで酒癖の悪かった本多忠朝（ほんだただとも）は、死後酒癖の悪い者をいさめてくれるということで、忠朝の墓（五輪塔の墓）に女性が祈っている絵馬。妻が夫の大酒に困って悩んでいるのであろう。禁酒祈願にも利用される。



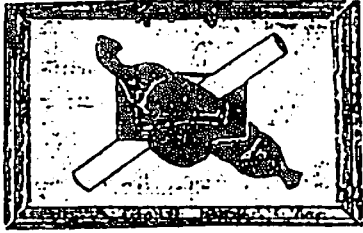
83. 禁酒

上は、一升徳利（いっしょう とっくり・1.8ℓ入りのヒョウタン）の形をした酒の容器を飾った絵馬。その他に、四斗樽（しとだる）に朱の大盃（たいはい・大きなさかずき）を伏せた図や瓶子（へいし・酒を入れて注ぐのに用いる細長くて口の狭い瓶〔びん〕、銚子とも言う）・朱盃（しゅはい）・一升徳利などに錠（じょう）をおろした図も見られる。

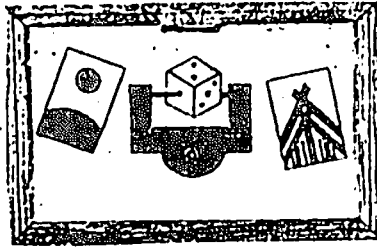


84. 女に錠（じょう）

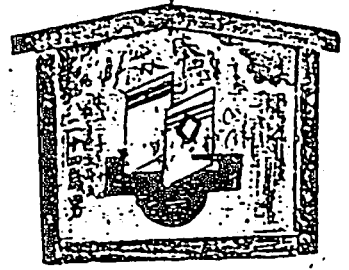
女に錠（中央にある）をおろす。つまり女を断（た）つ。浮気封じの祈願。妻が夫の浮気に悩んで内緒で絵馬を奉納し、祈願したのであろう。「錠物」（じょうもの）と呼ばれる絵馬の一つである。



85. 煙管(きせる)に錠
煙管と煙草(たばこ)に錠がかかっている図である。「錠物」の一つで、禁煙祈願の絵馬。



86. 賽(さい)に錠
賽(さい)に錠がおりている。そばには花札がある。つまり博打(ばくち)をやめる祈願の絵馬。



87. 花札に錠
花札に錠をおろす。つまり、花札をやめる賭け事禁止の祈願。



88. 心に錠
心に錠をおろす。つまり、断(た)ち事一切を対象としている。上の絵馬には「昭和二十九年一月八日」「年四十一才男」「禁ズ酒 煙管 女右」「一生」の字が読める。



89. 相撲(すもう)
白肌(しろはだ)の力士(手前)にいると赤肌の力士が相撲をとり、白肌の力士が勝つように、つまり、昔は色白が美人とされていたので、婦人が白肌になるようにと祈願する。



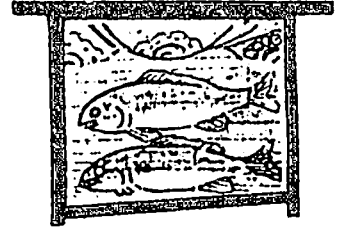
90. 鱈(なます) [一匹]
皮膚病の一種である鱈(なます)にかけて、皮膚病平癒を祈願する。鱈とは、糸状の細菌が寄生して黄茶色または白色のまだらができる皮膚病。



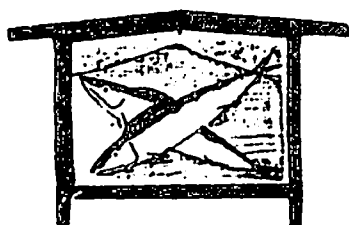
91. 鱈(なます) [二匹]
2匹の鱈の図は「鱈」の平癒の他に、夫婦和合・安産祈願にも利用される。



92. 蟹(かに)
蟹の甲羅(こうら)でも食べられる程、堅い歯になりたくて蟹を禁食して蟹を禁食して祈願。

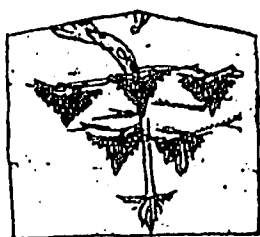


93. 鱒(いわし)
雄雄(しゅう)二匹が並んでいる。鱒は目が悪いと言われ鱒を禁食して眼病平癒を祈願。また、鱒の銀鱗(ぎんりん)から連想して蕁麻疹(じんましん)平癒、鱒の強い臭いから女性の性病平癒にも祈願する。



94. 鯖(さば)

鯖は鮮度の落ちが早く、すぐ目玉が白くなる魚で、新鮮度が要求される魚。この貴重な鯖を禁食して、子供の歯痛平癒などに祈願し奉納する。



95 逆さ松(さかさまつ)

「逆さ松」と「逆さまつげ」のころ合わせから、逆さまつげが治るようにと祈願する。



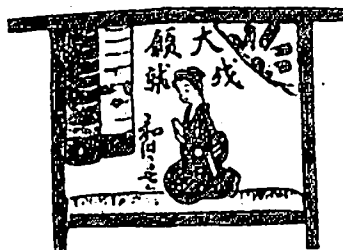
96. 小児様み(しょうにおがみ)

子供が拝んでいる「様み絵馬」。『様み絵馬』は和服姿でひざまづき、右から左前の方を向いて拝んでいるのが共通した構図である。



97. 母子様み

母と子が親子そろって何かを神仏に拝んでいる「様み絵馬」。



98. 女様み

赤と白の提灯(ちゅうちん)を前に、女性が何かを拝んでいる「様み絵馬」。上の絵馬には「大願成就」(たいがんじょうじゅ)と書かれている。



99. 男様み

男が神仏に何かを拝んでいる「様み絵馬」



100. 兵隊様み

直立不動の姿勢の帝国軍人が頭を垂れた「様み絵馬」。先勝祈願や戦場から無事に帰還したお礼もうでなどに奉納する。なお、脱帽している図も見られる。

『小絵馬百選』から漏れた主な絵馬

神仏を描いた図

お薬師様・・・薬壺を持った仏様である。東方の浄瑠璃光（じょうるりこう）世界に住んでいて、人々の病苦を救う。天台宗系の寺院、特に薬師堂に見られる。

観音様・・・手に蓮の花を持つ。観音菩薩（かんのんぼさつ）には他に十一面観音・千手観音（せんじゅかんのん）など特殊な観音菩薩も見られる。昔は観音札所（ふだしょ）巡りである『西国（さいごく）三十三か所』、『坂東（ばんどう）三十三か所』、『秩父三十四か所』として観音信仰が盛んであった。

鐘馗（しょうき）さま・・・鐘馗は中国の玄宗（げんそう）皇帝の夢枕に立って魔を祓（はら）い、病を治したと言う。そのことから悪疫（あくえき）ことに瘡瘡（ほうそう）神を軒（のき）守りとして軒先に掛けられる。

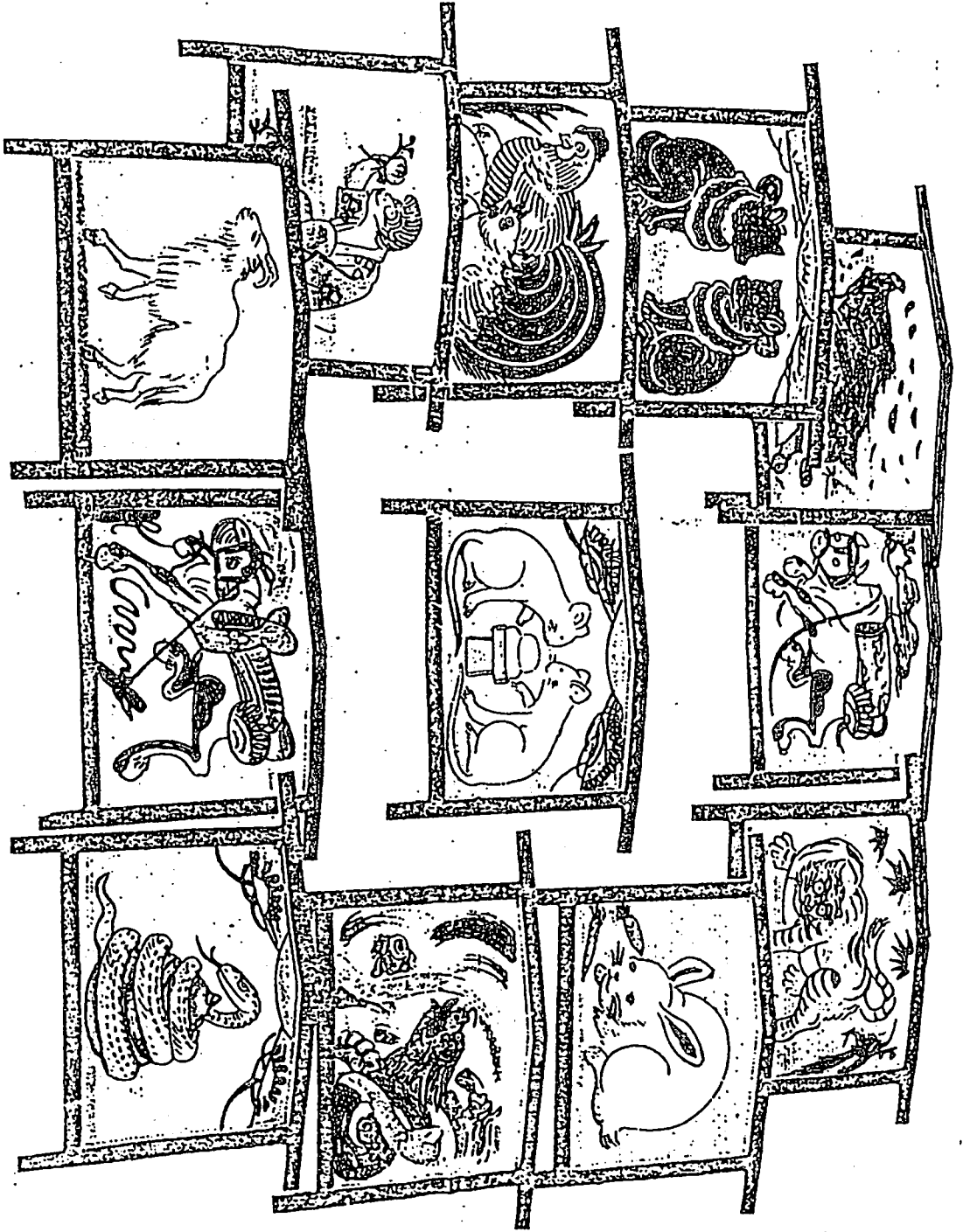
神仏に縁故の深い眷属（けんぞく）などを描いた図

獅子（しし）・・・獅子は文珠菩薩（もんじゅぼさつ）の使いで、文珠堂には知恵のつくことの遅い子供のために知恵を授ける文珠様に獅子の絵馬が奉納される。

干支（えと）を描いた図『十二支絵馬』

自分の干支に当たる動物を描いた十二支の絵馬は、神仏固有の信仰や伝説に惑わされることなく、どの神仏にも共通して奉納することができるため、広く利用されていた。ところが、今ではこうした意味の『十二支絵馬』は少なくなり、かわってその年の干支絵馬が一般的になった。子（ね）の年であればその一年間は誰が奉納しても、どんな祈願であっても子の図柄の絵馬というように固定した図柄となったのである。なお、図柄で十二支の動物は他の小絵馬同様に左向きが多い。

十二支絵馬



足立区の「あだち広報」637号(S59・1・1発行)の表紙より

表紙に描かれている小絵馬の解説

昭和47年(1972)12月初め、浜松市の伊場遺跡の奈良時代の地層から発見された絵馬。今のところ我が国最古の絵馬。縦7.3釐、横8.9釐、厚さ0.5釐の桧(ひのき)の板に墨で馬の絵が描かれ、胴の部分に薄く朱が残っている。上端中央には紐穴がある。

ここに見られる馬の姿は胴体がずんぐりしていて足が短く、古代の馬の姿を偲ばせる。また、朱が残っていることから赤毛の馬が描かれていたと推定され、止雨を乞うために捧げられたものと考えられている。

長雨のために田畑の作物が腐ってしまうような時には白馬(のちに赤毛の馬も使われる)が、また日照りの時は雨乞いのために黒い馬が捧げられた。

この冊子にのせてある絵馬の写真は『絵馬精撰』(恒星社厚生閣出版 石井真之助著)、『絵馬』(保育社カラーブックス 岩井宏実・山崎義洋共著)、『絵馬秘史』(NHKブックス 岩井宏実著)『足立区文化財調査報告書・絵馬編』(足立区教育委員会)などをもとにした。ここにあげた小絵馬のほとんどが、今ではすたれ手に入らなくなっている。

絵馬の分類は、『絵馬』(法政大学出版局 岩井宏実著)によった。

絵馬の解説文は、以上あげた本を主にもとにした。

平成2年6月16日 越谷市郷土研究会理事 加藤幸一